

ザンビア田舎の風景



初めてできた井戸を  
囲む子供達

# NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会 ORMZ ニュース第 35 号 (H26.12.17)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (fax0985-54-5711) 文責：理事長 日高良雄



**はじめに** 早 12 月も後半となりました。平成 26 年も残りわずか、早いものですね。皆様にはお元気にご活躍のことと思います。

この一年を振り返ると本当に多くの皆さんからご支援をいただき、心から感謝申し上げる次第です。山元先生が急遽日本で手術を受けるなど、ご心配もおかけしましたが、無事回復し、ザンビアでの巡回診療や飲料水確保のための井戸掘削も順調に進んでいます。重ねてお礼申し上げます。

来る平成 27 年が皆様にとってよりよい年でありますよう心からお祈りします。

**会の経過報告** 先日来申請しています認定 NPO 法人申請について担当部所から連絡があり、現在最終のチェックを行っているところです。できる限り早急に申請書を整えたいと考えております。認定された際にはお知らせします。

今回は、山元先生の後輩の寺原先生がザンビアで医療研修を行われた際の報告や、巡回診療同行レポートが届きましたのでお届けします。前回の報告と併せて、ザンビアの医療状況が理解できるかと思えます。またこの 1 ヶ月の活動報告をお届けします。

## 現地活動報告 (山本ひとみ様、寺原先生から)

### ここ 1 ヶ月の活動報告

◎11 月 21 日 ニャンカンガ地区で健康に関する啓発活動

一同が到着した 11 時には、コミュニティメンバー 3 人だけしかおらず、人が集まるのを待って開催、13 時半すぎに開始。地域の人曰く、「Plan International の催しは午後に行われることが多く、人々は午後集まるのに慣れている」とのこと。集まったのは、約 100 名。主に女性。ムワンタヤ地区と比べると人も少なく、手ごたえも乏しかった様子。開始が遅れたため、戻ってきたのも 21 時過ぎと遅くなりました。



ドラマグループの様子



参加した地域の人々

### ◎11月26日 ルアノ地区巡回診療

同行者：Mr.Muleta, Ms.Elizabeth, Mr.Sibanda, Mrs.Chabulika, Dr.Terahara

患者数：63名 主な症状：咳、目の痛み

約30人マラリアテストを行いました。マラリア患者はゼロ。

ルサカ内では、マラリア患者が出始めたとか。今月から要注意かもしれません。

### ◎12月3日 ルアノ地区巡回診療

同行者：Mr.Muleta, Mr.Mwanza, Mr.Sibanda, Mrs.Chabulika

患者数：76名 主な症状：咳、目の痛み

### ◎井戸掘削経過

2度目の検査用の水をChina Gansuに届け、12月8日、2度目の水質検査の結果を受け取りました。3基とも水質に問題はありませんでした。



### ◎車両管理

1. ボックス(3141)：先日、井戸の確認に行った際、パンクしました。破裂したような大きな裂け目ができてしまい、そのタイヤはもう使えないことからスペアタイヤと交換。スペアタイヤも状態は悪く、ルサカ内に入ってからそれもパンク。週末、事務所保管の別のタイヤとリムを交換して対処。

当座は問題ないが、今後も診療を「順調に・安全に」継続していくため、部品の交換や修理が必要＝ワイパー（緊急）、タイヤ止めのナット、タイヤ2本、サービス（フィルター・オイル）、四駆用ロックの修理（雨期の間、四輪駆動を確保するのは重要）

2. バルーン(1399)：ブレーキパッドが摩耗。ホーンがならない。後ろのドアのかぎがかからない。タイヤ近くの部品（部品名は不明）が壊れている。ブレーキパッドの交換、ホーン、後ろのドアのロックの修理完了。同じく部品の交換や修理が必要＝タイヤ4本、タイヤ止めのナット、スプリング・ラバー、前輪支え棒

### 寺原先生からの活動報告

11月10日から28日までの約2週間、ザンビア共和国にて医療保健研修をおこなった。

ザンビアの地を踏んだのは、今回で二度目である。

一度目は医師5年目の2007年、当時JICAの長期専門家として母子保健事業に携われておられた、山元香代子先生の元を訪ねた。途上国医療に興味のあることをお伝えしたところ、UTH(University Teaching Hospital)、ヘルスセンター、エイズ・ホスピス等をご案内して下さった。ストリートチルドレンの話亲身になって聞かれたり、児童虐待の被害を受けた子供達の保護状態に対して涙を流されたりと、香代子先生の医療に対する強く暖かい思いも伺い知ることができた。

その後、へき地医療という自治医科大学の義務年限を終え小児科専門医となった私は、バンコクで熱帯臨床小児医学を、ロンドンで公衆衛生を学び、来る1月より厚生労働省で医系技官として勤務予定である。今回も非常に短い期間しか確保できなかったが、UTHでの研修ができないものか香代子先生にご連絡し、ご対応いただいた。感染症含め国際化している医療環境における日本の立場、また自分の未来像をイメージするためにも、途上国の現状を臨床を通して見ておきたかった。

### ①UTHでの研修を通して

そのため今回は、主にUTHの小児科部門にて研修をした。小児科部門とはいっても、小児科各科毎に敷地をもつ巨大な病院群である。救急外来を中心に、各病棟（感染、栄養失調、周産期、未熟児、エイズ診療など）を周らせていただいた。UTHはザンビア唯一の大学附属病院なのだが、**高額の民間病院とは異なり無償の治療部門もあり、比較的 low cost の出費で診療が受けられる**が、医師がいる病院は非常に限られているため、実情はまさに野戦病院である。

ザンビアはアフリカの中でも医師不足が顕著で、**人口 10 万中医師 3 人という州（日本 226.5 人、平成 22 年）もある状況**であり、首都ルサカといえども医療従事者は圧倒的に足りていない。一次医療をおこなうヘルスセンターではクリニカルオフィサーや看護師が診療にあたっており、UTH は最後の砦となる。嘔吐下痢による重度脱水、新生児敗血症、重症肺炎、細菌性髄膜炎、AIDS、マラリア、痙攣重責、鎌状赤血球症等、各種感染症を中心に様々な疾患がヘルスセンターより紹介されてくる。その多くは、日本では診ることの少なくなった極めて重症な子達であった。泣く力も失った我が子を抱いた母親が列をなす様子は、異様な光景であり、また臨床医としてより働き甲斐のある場所にも思えた。

初期対応としての重度脱水等の患児へのルート確保は、頭皮静脈や頸部中心静脈および骨髄針にも頼らざるを得ないほどに困難を極めた。また日本よりはるかに多くの鑑別すべき感染症疾患が挙げられる中で、より詳細な問診が求められた。多くの子は元気になり退院するものの、助からない子もほぼ毎日いる状況であった。いかに早く受診できるか、またいかに早く医師が対応できるかが生命の分かれ道になっているように思われた。

ザンビア人小児科医は休憩もほとんどとらないままよく働き、概して優秀であった。検査も限られた中で日本ではとても考えられない数の重症患者に日々接しており、臨床能力は否応なしに高まると思われた。新生児科医においても、日本の医師と変わらぬ知識を有していた。患児や母親への接し方は個々それぞれであったが、それは日本も同様であり、コミュニケーションの教育は十分には行われていない印象ももった。またトリアージやカルテ保管等、管理上の問題も多いようであった。

## ②「ザンビアの辺地医療を支援する会」の活動に同行して

香代子先生が立ち上げられご尽力されている、この「ザンビアの辺地医療を支援する会」の活動にも同行させていただいた。1日は訪問診療（モバイルクリニック）、1日は啓発活動を見学したのだが、その名の通り辺地に住み医療を受けることのできない人々への医療・保健活動をおこなっている NPO である。本部のあるルサカよりそれぞれ車で片道 5 時間を要し、その道のりは舗装されていないどころか道路とも呼べない過酷なものであった。雨季には所々冠水することも容易に想像できた。2日間のみ同乗した私にとってはサバイバル感覚であったが、毎週診療活動をされている香代子先生の強さと思いをこれだけでも知ることができた。モバイルクリニックをされているルアノ地区には、子供たちを中心に非常に多くの住民が集まっていた。診療行為のみならず、クリニカルオフィサーによる衛生教育に始まり、ワクチン接種に妊産婦健診、family planning も連携しておこなっており、各地元スタッフとの強い信頼・協力体制が築かれていた。



巡回診療の様子

疾患としては、マラリア、細菌性赤痢等の急性腸炎、住血吸虫症などの寄生虫が多くみられるようであった。発熱にはまず第一にマラリアが疑われ、また否定する必要もある。検査には、熱帯熱マラリアのみの流行地帯であることから抗原迅速検査が使用されている。カルテ記載からも、毎回何十人もの住民が熱帯熱マラリアの治療を受けていた。モバイルクリニックの活動が始まる前は、治療どころか診断されることもなかったのであるから、コミュニティにとっての拠り所になっている。それだけ多くの住民が集まるため、毎週の診療日にはコミュニティ主催のマーケットも開催されていた。



マーケットに集まった子供達

啓発活動も同様であり、コミュニティーベースの演劇・ミュージカル形式のものであった。衛生と医療の大切さをドラマを通じて訴え、住民参加の形で各スタッフが質問に答えながら進行していた。近くの村から雇用しているアクターの皆さんの、喜怒哀楽を表した迫真の演技には驚かされた。

上記活動いずれも、香代子先生自らの資金と多くの方々からの支援でまかなわれている。安全な水の確保が必要と最近掘られた手押しポンプの井戸の周りには、子供たちが群がっていた。元気に走り回っている子供達の姿を見て、香代子先生が既にコミュニティーのひとつになっているように思えた。日本でも同様だが、教育と予防を含めたプライマリケアがいかに大切かを UTH での研修を通して痛感した直後でもあり、継続されている活動の意義と大切さを、一部かもしれないが実感することができた。

今回の研修では、英語を話す患児のお母さん方と直に話をし、地元スタッフ含めコミュニティーの皆さんと意見交換をすることもできた。この「ザンビアの辺地医療を支援する会」を通じて、途上国においてより一層医療が求められているということを学ばせていただいた。



ドラマによる啓発



スタッフ、地元のお母さん達と共に

**賛助会費の納入について** 今年には本当に多くの方から賛助会員になっていただき、心から感謝申し上げます。もし 26 事業年度（26 年 1 月から 12 月です）の賛助会費をまだ納入されていない方は、どうぞ賛助会費（一口 5000 円、一口以上）の納入をお願いします。納入したかどうか分からない際は、法人代表 [✉ info@ormz.or.jp](mailto:info@ormz.or.jp) または日高 ([hidaka1956@gmail.com](mailto:hidaka1956@gmail.com)) へ連絡してください。折り返しお返事をさせていただきます。どうぞよろしくをお願いします。

★郵ちょ銀行からの振替 口座記号番号 01720-9-126351

加入者名 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金 郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名： NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称（全角）：トクヒ）ザンビアノヘンチイリョウオシエンスルカイ （注：ヲ→オ）

以上です

今後ともご支援のほどよろしくをお願いします。